

第12章 誤訳しやすい語句・表現

最後は京大の過去問で出題された文から、誤訳しやすい単語・熟語や表現を取り上げたいと思う。この中にはいわゆる多義語と呼ばれるもの (but/short/will など)、辞書の定義通りの訳では意味不明になってしまうので意識が必要なもの (otherwise/apparently/supposedly など)、いわゆる受験参考書で紹介されている使い方とは違うもの (may well/might as well など)、定番の訳語に問題があるもの (constitute/after all/cannot help *doing* など)、辞書の定義や熟語欄にはっきり熟語や決まり文句と示されていないもの (be a function of ~/what ~ is all about など)、形だけを見て単純に熟語だと思って訳すと誤訳になるもの (such ~ as ... / one of ~ など) を扱う。

これらは、いわゆる構文という観点からは少々ずれるものもあるが、巷の参考書や辞書にさえはっきり記述されていないものもあるため、これを機会に取り上げたい。いずれにせよ、正しい英文解釈をするためには欠かせない項目なので、検討する価値は十分にあると思う。裏を返せば、そのような単語・熟語・表現にターゲットを当てて下線部訳を付して出題している京都大学の先生方に先見の明と鋭さを感じる。英語という科目はある意味不思議な科目で、辞書や文法書に載っていないくとも、多読している人間は自ずと了解している項目というものが存在する。

- (1) otherwise を単純に「さもないと」と訳していないか? (⇒ §115)
- (2) apparently を「明らかに」だと思っていないか? (⇒ §117)
- (3) 文中でも文修飾になる副詞があることを知っているか? (⇒ §117)
- (4) might as well ~ を「~した方がよい」だと思っていないか? (⇒ §120)
- (5) after all を「結局」だと思っていないか? (⇒ §121)
- (6) cannot help *doing* ~ を「~せざるを得ない」だと思っていないか?
(⇒ §122)
- (7) Your mood is a function of the weather. を訳せるか? (⇒ §123)
- (8) Knowing yourself is what education is all about. を訳せるか? (⇒ §125)